

令和元年 11 月 7 日

NSRR 管理課

NSRR 耐震改修工事において施工を変更した箇所に関する説明  
(その 2 あと施工アンカーボルト等の再穿孔等について)

○添付図-1 に示した箇所について、施工上位置決めのための仮付溶接を実施する計画と  
していたが、施工完了後の外観を考慮して本溶接することとした。

○添付図-2 のうちだ円で囲んだ箇所は、現場合合わせを考慮して現場溶接と  
していたが、工場溶接でも取り付け上不都合が生じないと判断したことから工場溶接に変更した。工場溶接の方が溶接の精度は高いため強度上の問題はない。それに  
伴いブレース上端部の赤丸で示した箇所を新設 GPL-16 の周溶接に合わせて溶接した。溶接することにより接合の強度は上昇することから強度上の問題はない。

○添付図-3 に示した機械棟間柱補強の CT 鋼を分割して取り付けた。CT 鋼は、間柱の長期軸力を補強するために設置するものである。分割箇所は、突合せ溶接にて接合した。接合箇所の写真を添付図-8 に示す。

○添付図-4~6 の雲マーク以外の柱脚部あと施工アンカーについては、埋設物が当たったことからより深いところまで穿孔を行った。埋設物に当たった場合は、添付図-7 に示すように、あと施工アンカー指針(案)(日本建築あと施工アンカー協会)に基づき一度穿孔した箇所を避けた箇所または、一度穿孔した箇所を用いる場合は、埋設部を避けて 15° 以内に収まるよう斜めに穿孔を行った。斜めに施工したアンカーボルトは、同指針に基づき硬化時間の経過後に施工面から突き出た部分を施工面に対して垂直になるよう修正している。

なお、鉄骨工事技術指針-工事現場施工編 4.5.6 (3) ボルトの垂直度において「微小な傾きであれば、ナットを取り付けてボルトを曲げ起こして補正する。」とされていることから修正については問題ないと判断している。

アンカーボルトが垂直よりも 15° 傾いた場合に、負担する応力はその角度によって影響を受けるとすれば、ある方向への影響の程度を単純化して数値化すると「 $\cos 15^\circ = 0.966$ 」となり、3%~4%と考えられることから 15° の傾きは微少なものと判断している。

添付図-1

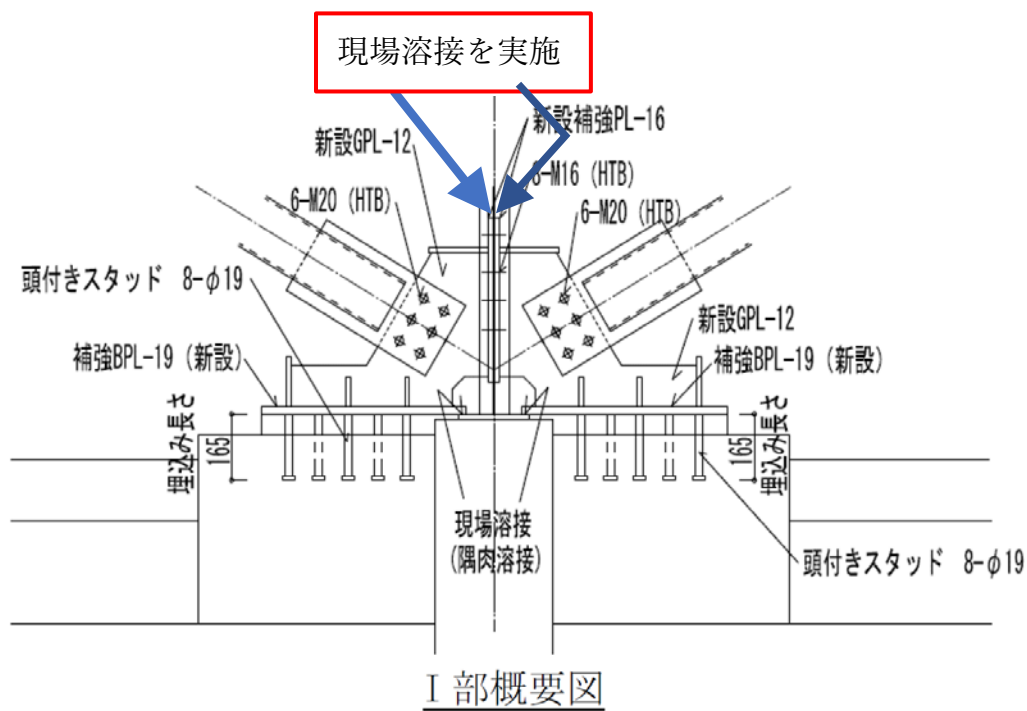


図3-7 機械棟柱脚部補強概要図のうちI部概要図

添付図-2

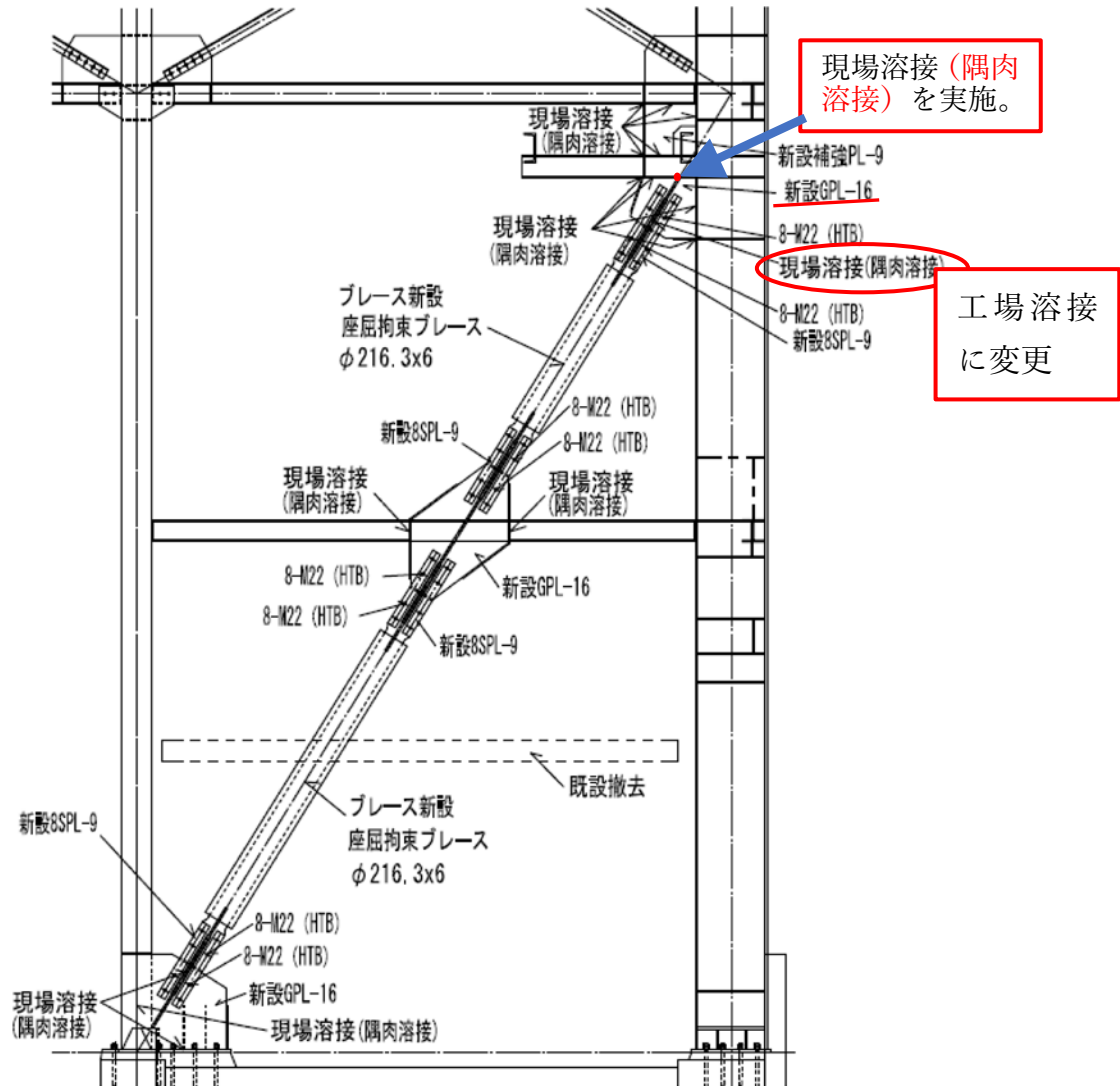


図 4-6 C 部概要図  
(照射物管理棟)

添付図-3

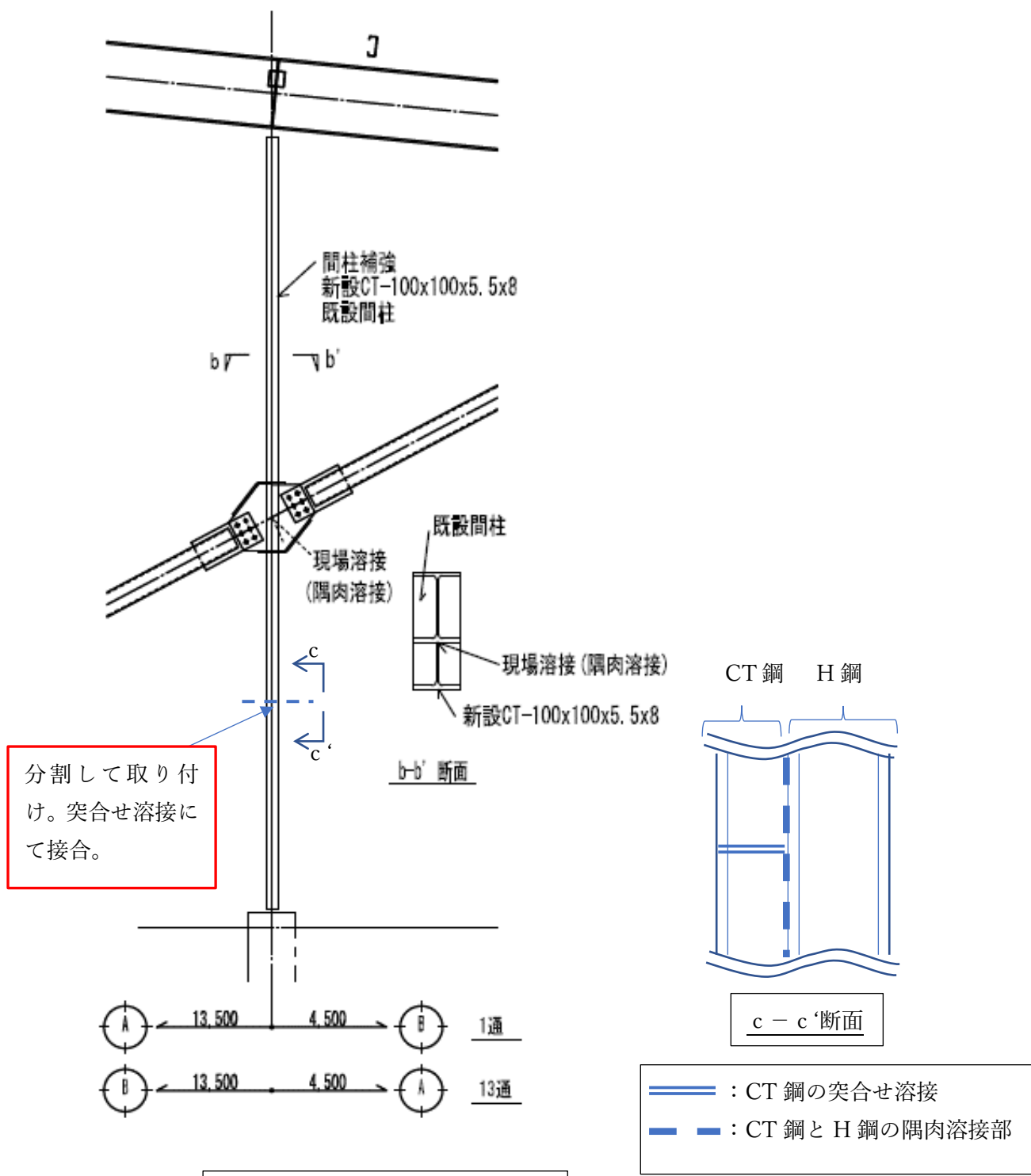


図 3-11 機械棟間柱補強概要図  
(G 部詳細図)

添付図—4

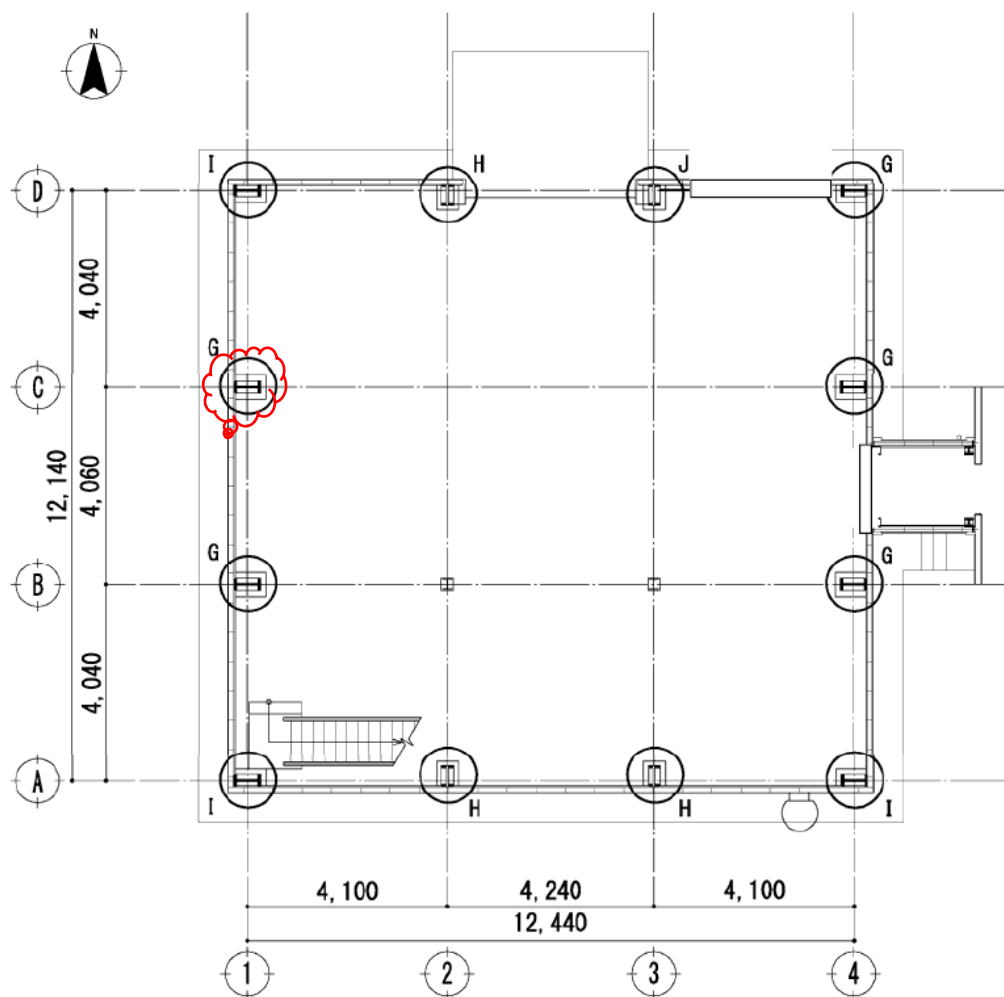

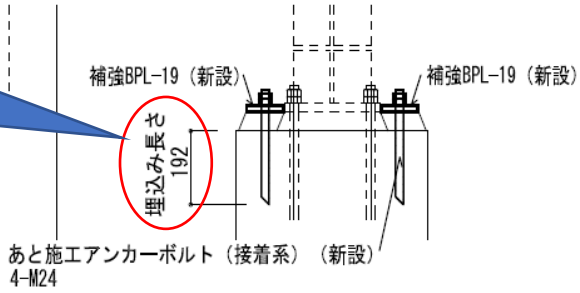


図 4 - 2 照射物管理棟 1 階伏図

 :埋設物に当たらなかつた箇所

埋設物に当たった場合には、埋設物からさらに埋め込み長さを確保。各棟同様。



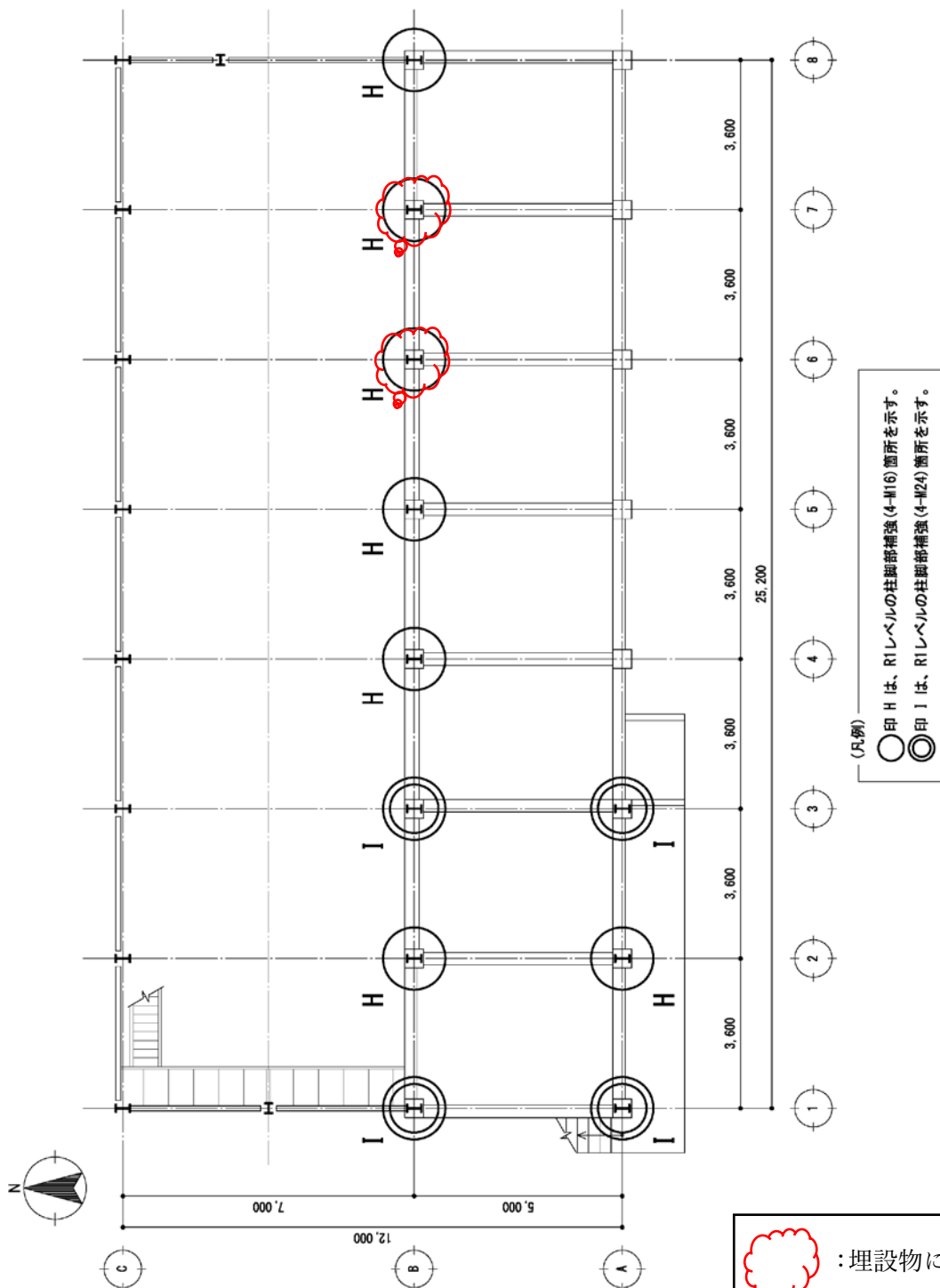
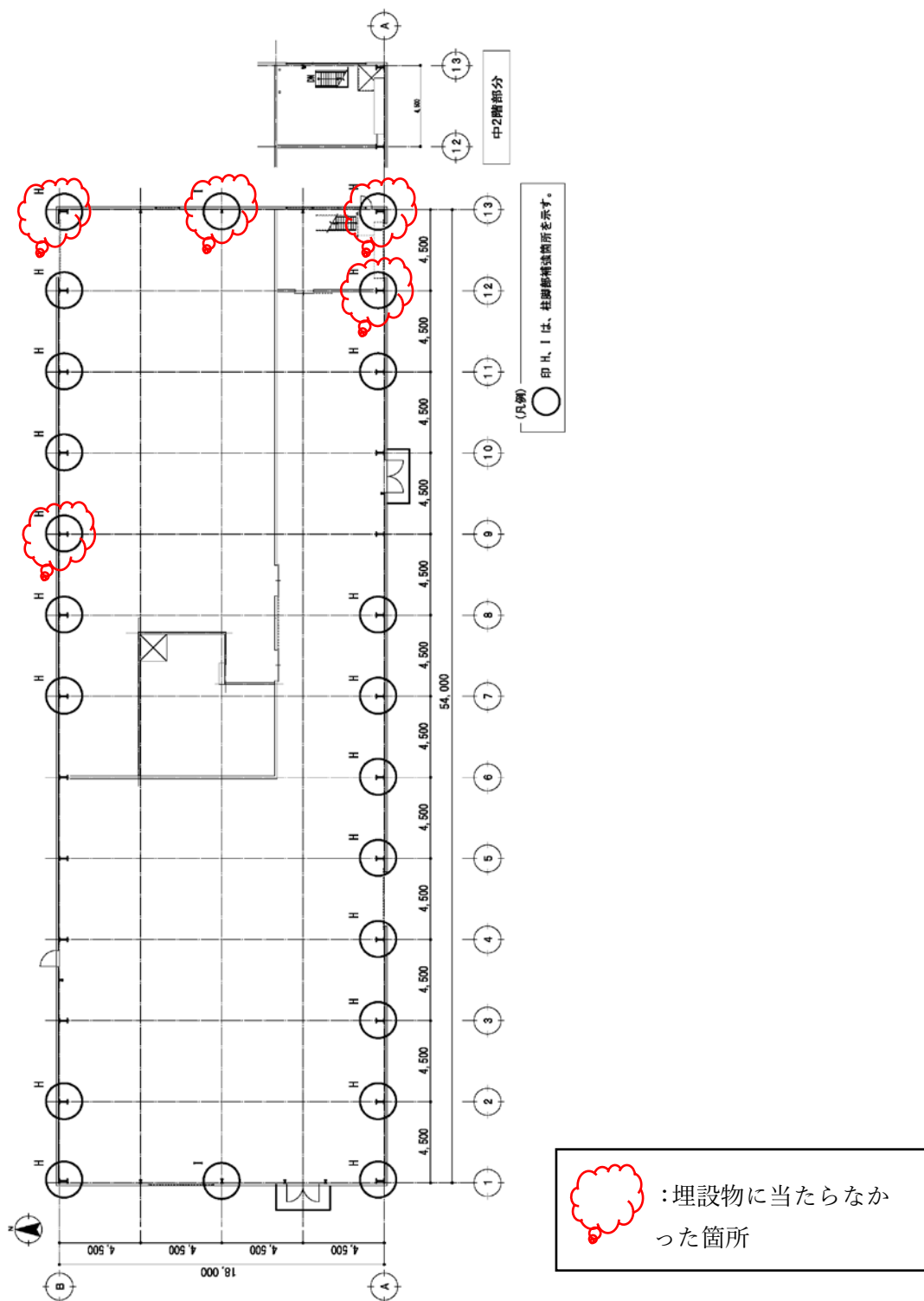
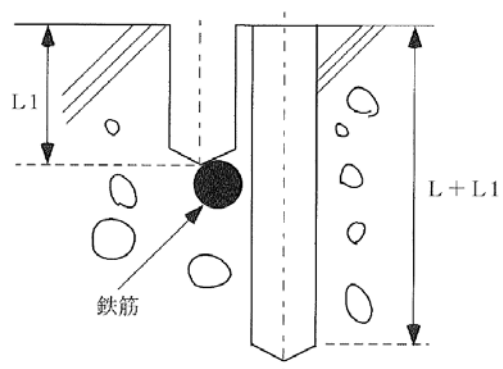


図 2-1 燃料棟 屋根 (RC 部) 伏図 (R1 レベル)

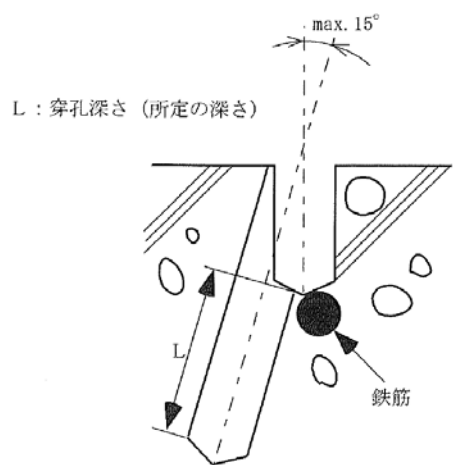


添付図 3 - 1 機械棟 1階伏図

添付図-7



L1 : 埋設物までの深さ  
L : 埋込み長さ





添付図-8

